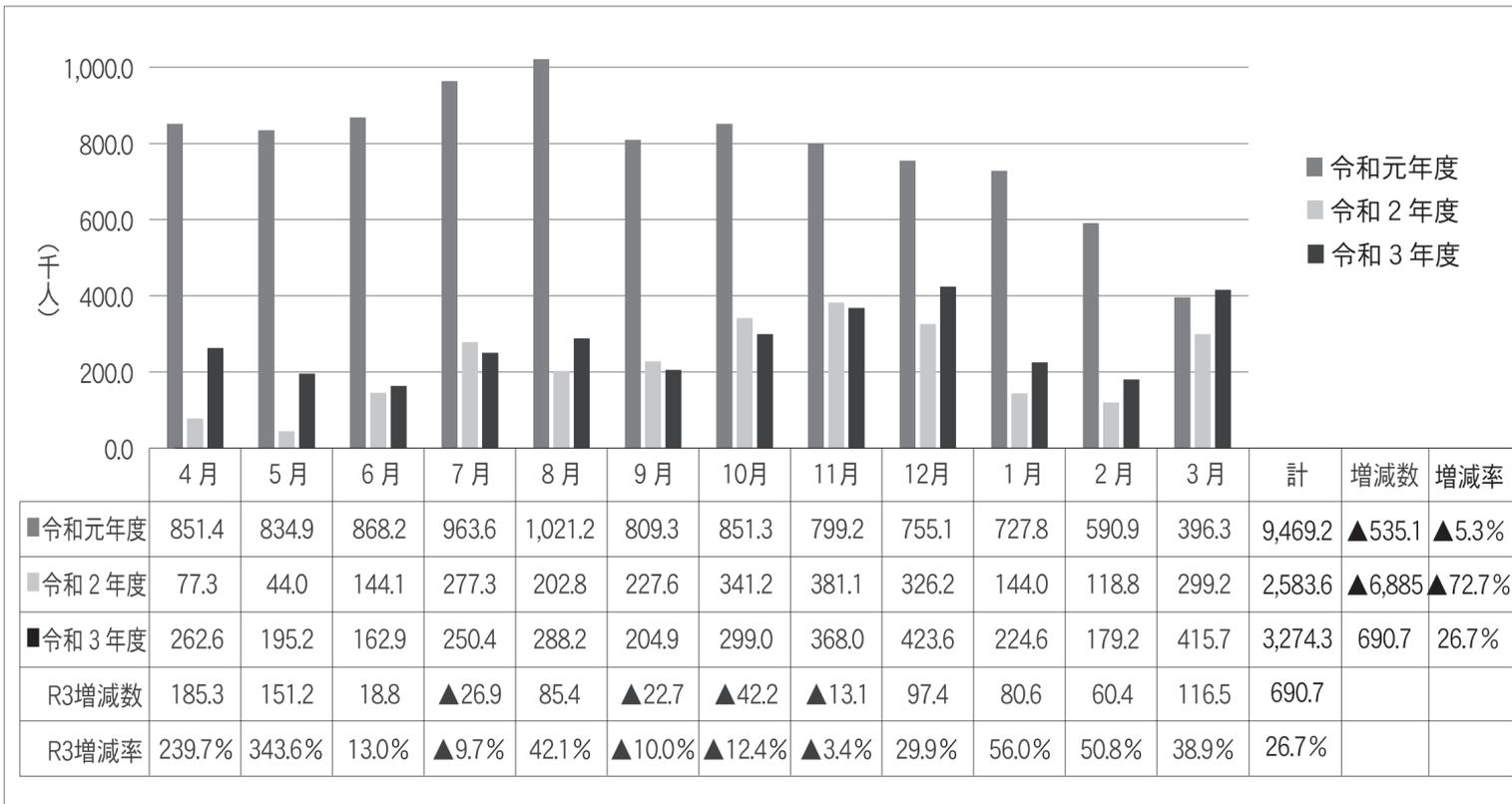


月別入域観光客数の推移 (令和元年度～令和3年度)



令和3年度、沖縄県入域観光客統計

3年ぶり増もコロナ禍前比65%減

11月以降回復も重点措置で厳しく

沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課の発表によると、令和3年度(4月～4年3月)の同県への入域観光客数は327万4300人で、前年度比26.7%増(69万7000人増)と、3年ぶりに増加に転じた。また、コロナ禍前の元年度比65.4%減(619万4900人減)と、依然として厳しい状況が続いている。

同県では前年度に比べて増加した要因として、ワクチン接種の普及や国内航空路線における減便規模の縮小、夏季期間における季節便運航、プロ野球キャンプの有観客での実施などが考えられるとしている。

4年度の見通しは、国内客は「新型コロナウイルス感染症による影響が見込まれるものの、ワクチン接種の普及や経口治療薬の普及、GOTOトラベル事業の実施などによる旅行需要の回復が期待される」としている。

一方、外国客は「日本への入国制限措置が段階的に緩和されているものの、観光目的での入国は認められていないことから、当面厳しい状況が見込まれる」とするが、「規制緩和に方針転換する国が増えてきており、国内外の動向に注視していく必要がある」と指摘する。

3年度の入域観光客数の内訳は、外国人観光客は2年度に続き、2年連続で0人。新型コロナウイルス感染症拡大などの影響で、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、台湾・中国・香港・韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置が取られているため。

国内観光客は、入域観光客数全体の数字と同じ327万4300人。

2年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響による旅行自粛などから、国内旅行需要も低調となった。ただ、2年度に比べて増加した。4月のまん延防止等重点措置に続き、5月から9月までの長期間には緊急事態措置が適用され、感染状況が落ち着いた11月以降、段階的な経済活動再開による、徐々に回復傾向が見られたものの、1月以降、再びまん延防止等重点措置が適用となり、コロナ禍による影響が大きかった。

方面別の動向は次の通り。

東京方面は前年度比27.9%増(36万7000人増)の169万4700人。減便規模の縮小や、羽田-名古屋路線などにおける増便、羽田-那覇路線の新規開設があったことなどから、前年度を上回った。

関西方面は前年度比22.8%増(12万6800人増)の68万2600人。減便規模の縮小や、伊丹-那覇路線などにおける増便があったことなどから、前年度を上回った。

福岡方面は前年度比25.0%増(8万5000人増)の41万2600人。減便規模の縮小や、福岡-那覇路線などにおける増便、福岡-石垣路線の新規開設があったことなどから、前年度を上回った。

名古屋方面は前年度比37.0%増(7万8800人増)の29万2人。減便規模の縮小や、中部-那覇路線などにおける増便、中部-名古屋路線の新規開設があったことなどから、前年度を上回った。

その他(同20.6%増)3万2900人増)の19万2400人。

調査データ

令和3年度上期観光入込客数 (実人数)

区分	日帰り		宿泊		計		
	前年同期比	前々年同期比	前年同期比	前々年同期比	前年同期比	前々年同期比	
第1四半期(4～6月)	道内客	+10.3%	▲24.3%	83万人	▲66.0%	928万人	▲13.4%
	道外客	±0.0%	▲50.0%	30万人	▲80.4%	31万人	+210.0%
	外国人	-	-	0万人	-	0万人	-
	合計	+10.3%	▲24.3%	846万人	▲75.5%	959万人	+15.8%
	前年同期比	▲6.0%	▲32.6%	1,027万人	▲48.9%	1,166万人	▲7.5%
	前々年同期比	▲32.6%	▲66.7%	3万人	▲62.6%	79万人	▲35.0%
第2四半期(7～9月)	道内客	±0.0%	▲66.7%	139万人	▲62.6%	1,245万人	▲8.0%
	道外客	±0.0%	-	76万人	-	79万人	▲15.1%
	外国人	-	-	0万人	-	0万人	-
	合計	▲6.0%	▲32.8%	1,030万人	▲60.4%	1,245万人	▲8.0%
	前年同期比	▲16.3%	▲60.4%	215万人	▲60.4%	1,245万人	▲8.0%
	前々年同期比	▲6.0%	▲32.8%	1,030万人	▲60.4%	1,245万人	▲8.0%
上期(4～9月)	道内客	+0.7%	▲29.1%	222万人	▲57.0%	2,094万人	+0.8%
	道外客	±0.0%	▲63.6%	106万人	▲70.2%	110万人	+6.8%
	外国人	-	-	0万人	-	0万人	-
	合計	+0.7%	▲29.2%	1,876万人	▲67.4%	2,204万人	+1.1%
	前年同期比	▲100.0%	▲100.0%	328万人	▲100.0%	2,204万人	▲39.7%
	前々年同期比	▲100.0%	▲29.2%	1,876万人	▲67.4%	2,204万人	▲39.7%

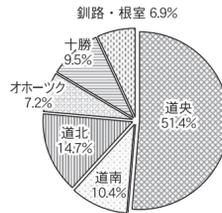
※数値は端数処理の関係上、合計等が合致しない場合がある

圏域別観光入込客数 (延べ人数)

圏域	観光入込客数	前年同期比	増減数	構成比
道央	2,568万人	+2.4%	+60万人	51.4%
道南	518万人	+13.7%	+62万人	10.4%
道北	734万人	▲2.6%	▲20万人	14.7%
オホーツク	361万人	+4.9%	+17万人	7.2%
十勝	474万人	+2.6%	+12万人	9.5%
釧路・根室	345万人	+10.2%	+32万人	6.9%
全道	5,000万人	+3.4%	+163万人	100.0%

※数値は端数処理の関係上、合計等が合致しない場合がある

圏域別構成比



宿泊客、3%増の328万人 コロナ禍前比は67%の大幅減

北海道経済部観光局観光振興課がこのほど発表した令和3年度上期(4～9月)の道内への観光入込客実人数は、前年同期比1.1%増の2204万人。新型コロナウイルス感染症の世界的流行により記録的な減少となった前年同期と比べ、23万人の増加となる一方、感染拡大前の元年度との比較では39.7%減と、おおむね6割程度にとどまっている。

このうち日帰りの客は前年同期比0.7%増(元年度同期比29.9%増)の1876万人。宿泊客は前年同期比3.4%増(同67.4%増)の328万人。4～6月の第1四半期は、同15.8%増(同39.3%増)の959万人。うち、日帰りの客は同10.3%増(同24.3%増)の846万人。宿泊客は同8.0%増(同16.3%増)の215万人。道内の新しい旅のスタイルや、市町村独自の宿泊施設整備の効果もあり、日帰り・宿泊客ともに前年同期に比べて増加した。

7～9月の第2四半期は、同8.0%増(同40.0%増)の1245万人。うち、日帰りの客は同6.0%増(同32.6%増)の1030万人。宿泊客は同15.1%増(同62.6%増)の79万人。道内への観光客は、感染拡大により、全国でまん延防止等重点措置や緊急事態宣言が発令されたこともあり、日帰り・宿泊客ともに減少している。

外国人観光客は、国の入国拒否措置などの影響から、前年に続きゼロとなっている。道内市町村における観光入込客数を合計した総数(延べ人数)は、前年同期比3.4%増(163万人増)の5000万人。

6の圏域別では、道北地域を除く5圏域で前年同期比増加した。

道南圏域と釧路・根室圏域は、春先の道の駅などの集客が好調だったこと、前年同期比で1割以上増加した。道北圏域は、まん延防止等重点措置で一部地域が措置区域に指定されたことに加え、緊急事態宣言の発令に伴って、観光客の減少が顕著となった。

道南圏域は、前年同期比7.0%増(60万人増)の2204万人。道央圏域は、前年同期比2.4%増(60万人増)の2568万人。道北圏域は、前年同期比2.6%減(20万人減)の734万人。オホーツク圏域は、前年同期比4.9%増(17万人増)の361万人。十勝圏域は、前年同期比2.6%増(12万人増)の474万人。釧路・根室圏域は、前年同期比10.2%増(32万人増)の345万人。

訪日外国人来道者の宿泊延べ数は、観光目的の入国が制限されていることから、2万6700人泊り、依然として低水準が続いている。前年同期との比較では9.8%の増加(2400人泊り)。

圏域別では、道央圏域が最も多く、1万9600人泊り、構成比73.4%。前年同期比では25.7%増加(4千人泊り)した。

実人数増加も感染拡大前の6割程度

令和3年度上期、北海道観光入込客数調査